

第3章 観光ビジョンの基本方針

1. 東御市の観光が目指す姿

現在の東御市の観光は、第2章でみてきたように、これまでの取組で若干の改善が認められるものの、依然として来訪者数が伸び悩む厳しい現状に直面しています。

これまでの観光振興施策は、行政と観光事業者が主導して、集客拠点の基盤整備と来訪者を誘うためのキャンペーンやイベントを中心に推進してきました。

しかし、これからは、本市ならではの自然環境や景観、地域が大切にしてきた伝統や文化などに触れてもらう“地域ストーリー”^{注8}という新たな視点によって、来訪者に癒しや楽しみ等を提供していく必要があります。この地を訪れる来訪者に地域の魅力について共感を抱いてもらうためには、何よりも本市の住民自身が、自らの住む地域の歴史や文化、豊かな自然に誇りと愛着を持ち、皆が意識を高めていくことが重要だと考えられます。

また、人口減少に伴い地域活力の低下が懸念されている昨今、観光振興により生まれた交流人口を“関係人口”へと拡大させていくことが、観光まちづくりのための地域の活力となり得ます。

こうしたことを推進していくためには、観光の担い手となる住民やさまざまな事業者、地域団体が地域の魅力についてのビジョンを共有し、本市ならではの“地域ストーリー”を紡いでいく必要があります。

これらを踏まえ、東御市観光が“目指す姿”を次のとおり掲げます。

『標高差 1500mの“地域ストーリー”がつむぐ“交流”のまち』

～ “感動” と “幸せ” の共感が生まれる地域を目指して～

注8)地域ストーリー…

観光による地域振興を実現していくことを目的に、住民及び観光客の双方に、その地域の特性や魅力を強く認知させ、地域づくりや来訪といった活動を促す手段として設定する概念。

経済産業省が、観光地全体としてビジョンをもったディスティネーション・マネジメント（旅行者の「目的地」として、顧客視点での観光地域経営や観光資源開発を進めること）を定着させるために打ち出した考え方。

→ 本市では、これらの考え方を参考に、

“来訪者が「地域」を感じ、“感動”や“共感”を抱いていただけるよう、地域全体が自らの愛着の源となっている地域の魅力を誇りに、“東御市ならではの”というこだわりのストーリーを演出していくことにより、来訪者と地域に“感情的”なつながりを創り出すこと”と定義します。

2. 基本方針

東御市観光の“めざす姿”実現のためには、市民、地域、事業者など、多様な主体の参画による取り組みが欠かせません。

「標高差 1500mの“地域ストーリー”がつむぐ“交流”のまち」を実現するために、次の4つの基本方針を掲げ、皆で知恵を出し合い、お互いに協力し合って取り組みを進めるものとします。

1 地域と共に創る魅力ある“観光地”づくり

～魅力と個性の観光地デザイン～

市民や地域、事業者などの多様な主体すべてが、豊かな自然環境、優れた歴史・文化を有する“ふるさと東御市”の価値に誇りをもち、地域の“宝”である観光資源を再発見し磨き上げることで、皆が一丸となって東御市ならではの魅力的な観光地を創ります。

2 地域資源をつなぐ東御市ならではの“ストーリー”づくり

～域内連携による地域ツーリズムの創出～

豊かな自然、薫り高い歴史・文化、農産物やワインなどの地場産品と観光とが連携し、自然散策やスポーツ交流、健康づくり、農業体験などをテーマとした観光メニューを提案することにより、訪れた人に“地域ストーリー”を味わってもらうことのできる新たなツーリズムを構築します。

3 郷土愛をホスピタリティにつなげる“人”づくり

～観光地域づくりを担う人材の育成～

来訪者の“共感”を得られるよう、住民をはじめ多様な主体が、自主的かつ創造的に、東御市に心のふるさとを求めて訪れる人々を温かく迎える“おもてなし”を提供し、来訪者を満足させることのできる人と地域を創ります。

4 魅力を伝えられる“情報発信力”づくり

～効果的な観光プロモーション～

旅行スタイルが変化し、情報収集手段も多様化する中では、旅行者のニーズにマッチした観光情報の発信や宣伝が欠かせません。市場の動向を的確に把握しながら、ターゲットを絞って情報を発信し、本市の持つ魅力を効果的に宣伝していきます。